

わおん 通信



2023
冬号
vol.51

特集

4年ぶりのまちなか開催

おもしる環境まつり2023



CONTENTS

P2 - P3

SDGsイベントで「温暖化防止啓発」
映画の力で、「食品ロス」と「温暖化」を考える
高校生が考える持続可能なまちづくり

P4 - P5 **4年ぶりのまちなか開催**
おもしる環境まつり2023

P6 **県情報①**
推進員さんの活動報告

P7 **県情報②**
「2050年カーボンニュートラルわかやま」
ロゴマークを作成しました！
運輸業界向け脱炭素セミナーを開催しました！

P8 **INFORMATION**



2050年
カーボンニュートラルわかやま

SDGsイベントで「温暖化防止啓発」

- ① 2023年10月1日
SDGsはしもと環境フェア2023
橋本市民会館他
- ② 2023年11月12日
すこやか橋本まなびの日
県立橋本体育館

[伊都・橋本地球温暖化対策協議会]



SDGsはしもと環境フェア2023 (エコキャンドル)

橋本市主催の2つのイベントに出展しました。「SDGsはしもと環境フェア2023」は、市の消費生活センターと生活環境課が一体になったことを機に行われたもので、今年が第1回目のイベントとなりました。会場の橋本市民会館には、手回し発電機と太陽光で創った電気を使って鉄道模型を動かすコーナーや袋の



すこやか橋本 まなびの日 (エコ石鹸)

中で生ごみを発酵させて堆肥に変えるしくみを説明する相談コーナー、市内の小中学生が描いた消費生活啓発のポスターなどの出展がありました。当団体は、廃油を使ったエコキャンドルづくりのブースを出展し、多くの方で賑わいました。もうひとつのイベントは県立橋本体育館で行われた「すこやか橋本まなびの日」です。今年で14回目となるこのイベントは、子供たちの豊かな感性とたくましく生きる力を育む趣旨で行われています。会場ではバルーンアートや楽器の琴の体験、点字で名刺をつくる体験コーナーなど多くの出展がありました。当団体は、植物性の素地を使った「エコ石鹸づくり」の体験ブースを出展しました。手を動かすことで子供たちの好奇心を刺激できました。

どちらのイベントも資源を上手に利用するヒントとして楽しみながら学べる機会を提議できました。
(推進員 黒井成男)

映画の力で、「食品ロス」と「温暖化」を考える

2023年11月19日
かつらぎ町「あじさいホール」

[伊都・橋本地球温暖化対策協議会]

「食品ロス」削減に向けた啓発活動の一環として、今回「もったいないキッチン」の映画上映会を開催しました。参加者は170名に達し、和歌山県内のみならず、大阪からも参加いただきました。最近特に注目されている食品ロス問題について、映画を通じて多くの方に現状と対策のヒントを共有することが狙いです。



開会のあいさつでは、中阪雅則かつらぎ町長から「牛乳の手前どり」を呼びかけるコメントがあり、賛同する様子も見られました。作品中で、ごみとなった食品の運搬や廃棄に多くのCO₂が発生していることが紹介され、自分事として考える機会となりました。来場者からは「おもしろい映画だった。」「勉強になった、実践していきたい。」「といった感想が寄せられました。当協議会では、今後も食をテーマにした企画を行い、地域の人々の意識を高める活動を行っていきます。
(推進員 黒井成男)

高校生が考える持続可能なまちづくり

箕島高校・総合学習「ブルーアース・ラボ」
和歌山県立箕島高等学校

[和歌山県センター]

◆高校生が社会とつながり活躍できる授業
SDGsを学ぶ機会として、和歌山県立箕島高等学校が2021年から取り組んでいる

◆まちの課題と向き合う
県センターは「地域活性」というテーマを選択した12名の生徒とともに「空き家+断熱」について約3ヶ月の授業を進めていきました。まずは、暮らしに必要な要素である「衣食住」の授業を行い、住まいが生活の中心であることを学びました。次に、地域にはどんな課題があるかを知るため、町の現状調査を行いました。その結果、多くの空き家や空き店舗があることを知り、自分たちが課題解決のためにど

ブルーアースラボ
凛烈のSDGs

このイベントは、箕島高校第1学年「総合的な探究の時間」の活動です。
山の恵み 万博ツアー
海ごみ 小学校
ジェラート 寿司
リサイクル 地域活性
について学んだことを発表します。

2023年
入場 12月6日 土曜日 10:00-
無料 午前部 10:00~11:00受付 9:30~10:00
午後部 12:30~14:00受付 11:00~12:30

和歌山県立箕島高等学校
本館 1階 東校舎 2階
和歌山県立箕島高等学校

成果発表の参加案内チラシ

んな関わりを持てるかを探っ
ていきました。

◆自分たちとのつながりを探る

現状調査の後、全校生徒を
対象にアンケートを実施しま
した。内容は「放課後の過ご
し方」について、立ち寄る場
所や何を食べてどんなことを
しているかなど10の質問をし
ました。その結果6割の生徒
が地域外から電車通学をして
いて、電車が来るまでの待ち
時間を快適に過ごせる場所を
求める声が多いことが分かり
ました。これらのニーズに応
えるため、通学路途中にある
空き店舗を活用することにし
ました。

◆実店舗を使って計画開始

高校生によるこのプロジェ



アンケート内容を分析する生徒ら



空き店舗の中を確認



建築士による基礎の授業

クトに賛同した地元の方が開
業を予定して空き店舗を借り
てくれました。生徒らは、ど
んなお店にするかについて具
体的な計画を立てるため店舗
を訪問視察し、外観や店内の
レイアウトなどを写真に撮り
ながら状況を確認していまし
た。

◆専門講師による授業

そして発表当日までの最後
の4日間を使って、生徒たち
のアイデア出しが始まりまし
た。空き店舗の改修（リノベ
ーション）の計画を立てるため
に、基本を学ぶ上で欠かせな
い、デザインと設計について
3名の専門家から授業を受け
ました。株式会社紀州まちづ
くり舎の吉川誠人さんからは
地域とのつながりやりりノベ

◆大勢の前で成果発表

そして、いよいよ成果発表
当日。学校には地元の方や教
育関係者など、多くの方が訪
れました。8
つのテーマは、
それぞれ別の
教室でプレゼ
ンテーション
を行いました。
地域活性化ク
ラスは2チーム
に別れて計画
を進めてきた
ので、チーム
『アカタコ』・
チーム『魚カ
フェ』がそれ
ぞれ発表しま

シヨンに必要な要素や考え方
を学びました。伊藤忠建材株
式会社の森口真一郎さんから
は建物の歴史と素材の変化、
そして断熱のいろいろと家庭
のエネルギーについて学びま
した。そして建築士の田中隆
介さんからは建築の基本的な
考え方と、成果発表に必要な
イメージ図の作成方法を学び
ました。生徒たちは、イメー
ジを固めるために実際に店舗
を訪れ、大きさや空間の雰囲
気を確認しました。そして、
これまでのアンケート内容を
もとに話し合い、理想とする
店舗の図面を完成させました。

れました。8
つのテーマは、
それぞれ別の
教室でプレゼ
ンテーション
を行いました。
地域活性化ク
ラスは2チーム
に別れて計画
を進めてきた
ので、チーム
『アカタコ』・
チーム『魚カ
フェ』がそれ
ぞれ発表しま



一般来場者の前での成果発表

した。チーム『アカタコ』は
対象物件のともとの屋号か
らネーミングされたもの。コ
ンセプトは「ゲームコミュニ
ケーション」としてスマート
フォンのゲームからボード
ゲームまで、様々なゲームを
通じた交流の場として、学生
だけでなく地域の方々とのつ
ながりも意識したデザインを
発表しました。チーム『魚カ
フェ』は文字通り「魚」をコ
ンセプトにしたもの。店内に
大きな水槽を置いて、ミニ水

族館のような空間デザインを
発表しました。この日は、の
べ100人以上の方が教室を
訪れ、廊下からの見学者も出
る程でした。来場者はそれぞ
れの発表に熱心に耳を傾けて
いました。

◆生徒たちの感想

成果発表を終えた生徒たち
からは「最初、地域活性とい
うテーマを聞いた時は難しい
という印象だったが、学習を
進め、実際の建物を見たこと
で、空き家や空き店舗という
地域の課題について自分たち
が考えることの大切さに気づ
くことができました。また大人
の方々のアドバイスが心強かつ
た。」「今回の取組を通して想像
力がついたと思う。自分たち
の考えたことを先輩たちに受
け継いで欲しい。」「また来年も
機会があるなら、地域活性の
クラスに関わりたい。」といっ
た感想がありました。

◆次年度に向けて

このように地域と一体と
なった取組は、有田市だけで
なく県内各地で進めることが
可能です。持続可能な社会を
つくるための具体的な取組は、
各地の推進員も共に活躍でき
る機会となります。県センター
からの今後のお知らせに注目
してください。

特集

4年ぶりのまちなか開催

おもしろ環境まつり2023

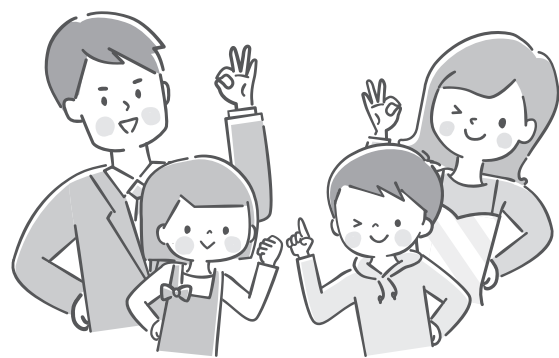
小学生とその保護者を対象とした「体験型イベント」として毎年開催している、おもしろ環境まつり。今回は4年ぶりの「まちなか開催」としてJR和歌山駅近くの、みその商店街アーケードで開催された様子をお伝えします。

体験型イベントいろいろ

今回も商店街アーケードのメインストリートに、趣向を凝らした出し物が並びました。市民団体をはじめ、企業や自治体などが全35ブースを出展。水生生物の立体ペーパークラフトが作れるブース、原料の80%が植物油でできている粘土石鹸づくりでは、参加者が思い思いの形にしていました。また、廃棄されるバナナの皮を再利用した「バナナペーパー」を使ったしおり作りなど、手を動かしながら学べる出展が並びました。水素エネルギーを燃料とする次世代自動車のブースでは、災害時に繋ぐと電気を取り出すことができる装置を使って、扇風機を回したり、参加者自らの手で作る綿菓子製造機を動かしたりして、人気を集めていました。



商店街アーケードに並ぶ出展ブース



親子ブースも充実

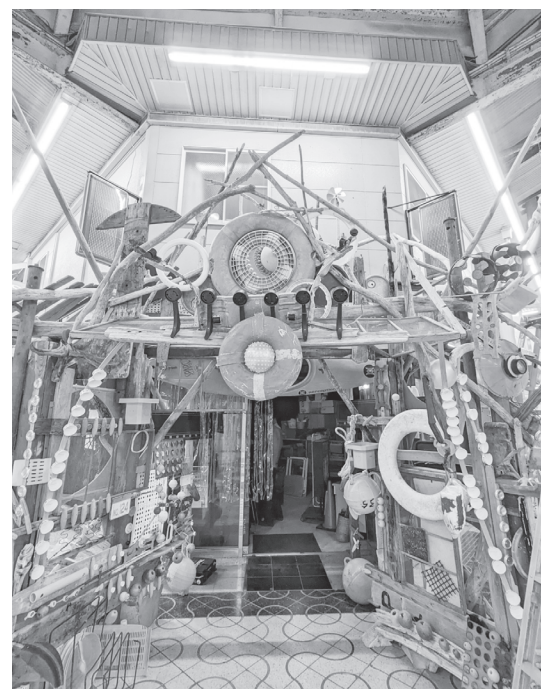
また、「親子で出展」したブースも複数ありました。麻ひもを指で編んでつくるエコたわしコーナーや、ビーチクリーンで使うトングに好きな色や絵をつけてオリジナル作品にするコーナー、賞味期限の切れたパセリやターメリックなど、食品の色素成分を用いたクレヨンづくりコーナーなど、楽しさとともに実用性や再現性が高い出し物もあり、訪れた参加者が夢中になって取り組んでいた姿が印象的でした。



指を使って麻紐を編みタワシの形にしています

年々認知度が高まってきたステージセット

ステージセットは今回も海洋漂着ごみを中心とした廃棄物を使って、大胆に、そして繊細に組み上げられました。歴史を感じる看板や、大量のアルミ缶の底ばかりを集めたパーツ、カラフルなプラスチック部品など、かつては「誰かの役に立っていたもの」ばかり。これらを組み



浜に打ち上がった廃材や流木を組み合わせで作られたステージセット

合わせたアート作品は、本番当日だけでなく制作段階から商店街アーケードを通過する人々の目を惹きつけていました。

大人が伝えるステージプログラム

毎年おなじみ、防災士の資格を持つ「和歌山のおばちゃん」こと、落語家の桂枝會丸さんによる防災トークや、安心できるフルーツを使った子供のおやつ開発＆販売を手掛ける株式会社やまやま代表取締役の猪原由紀子さんをゲストに迎えた環境トークセッション、「ジェンダー平等」をテーマにしたSDGsBOYSによる漫才もありました。



SDGsBOYSの漫才

子供たちの輝かしい環境活動発表

ステージは大人だけでなく子供たちの発表も充実しました。和歌山市立和歌浦小学校の子供たちを中心に構成される「エコエコクラブ」は、紙芝居とダンスで海の保全についてメッセージを伝えました。また昨年に引き続き「わかやまこどもエコチャレンジ」の表彰式が行われました。3,573作品から見事入選したのは8作品。当日参加した6名がステージに上がり、順番にメダルと表彰状を受け取りました。子供たちからは「数値化することが大変だった」「ワットチェッカーという機器を使うと、炊飯器やドライヤーの消費電力が大きいことが分かって驚いた」といったコメントがありました。審査委員長の中島敦司教授は「今年はデータをとった説得力のある作品が多く、非常に素晴らしかった。この経験を今後いろいろな学習に活かして成長してもらいたい」とエールを送っていました。また今回初めて、「わかやま環境賞」の受賞者もゲスト出演しました。この賞は県内において優れた環境保全活動を行う個人や団体に対して毎年6月に表彰しているものです。北山村立北山小学校の子供たちは、1,000km以上も海を超える「渡り蝶」のアサギマダラについて、観察や調べ学習を通じた生物保全活動の様子を

ステージで披露しました。「去年と同じ日に来たことがおもしろかった」「来年もまた来てくれることが楽しみ」と調査活動への思いを話しました。



エコエコクラブの紙芝居発表

じっくり、ゆっくり体験

来場者からは、「海を掃除してくれる（海面清掃兼油回収船の）海和歌丸の存在を知ることができた！（釣り好きの子供さんが普段から気になっていた海のごみ問題についての回答）」「日々の暮らしの中でできることも再確認する良い機会となった。」「環境問題という大きい問題ですが、身近なところから小さな事でも取り組んでいくことが大事だと感じました。」「家族全員でゆっくりと楽しめました。」と、新たな発見や充実した時間を過ごせた、というコメントが多く寄せられました。



ヒノキの丸太切に挑戦

環境への関心づくりの拠点として

様々な課題をもつ環境分野ですが、問題を作り出すのも解決するのも私達です。決して我慢や無理を押し付けず、「自分ごと」として多くの人が環境対策に加わることで、やがて当たり前へと繋がっていきます。おもしろ環境まつりは、出展者と参加者が一体となって作るイベントとして、今後さらなる工夫が求められます。

推進員さんの活動報告

報告書（2022年度後期、2023年度前期報告書より）の中から、推進員さんの活動の一例を紹介します。

和歌山市 加藤理菜さん

1. 活動内容

磯ノ浦Familyビーチクリーン（2022年秋、2023年春、夏）※今後も定期的に活動予定

2. 活動を通じて気が付いたこと

- 大量の海洋ごみは、誰かがそこに捨てに来ていると思っている人もいます。しかし、その多くは、自分たちが日々の生活で出したものが強風やカラス、猫などの動物によって散らかり、川に流れ海まで来ています。その事実を知らない人が多いと感じます。「ごみの出所は自分には関係ない」と思わずに、「全ての人に原因がある」という事を知って欲しいです。
- 活動に参加する子供に「頑張って拾いなさい」と言うと子供にとっては「やらないといけない」になり「もう行きたくない」となってしまう子が居ました。そのため「3袋だけ頑張ったら、後は遊んでいいよ。」等と伝えると、子供は張り切って集めてきてくれます。スタンプカードを作って楽しみながら継続できるようにも工夫しています。



海南市 堀田めぐみさん

1. 活動内容

6月の線状降水帯による災害後の清掃

2. 活動を通じて気が付いたこと

水害のとき日頃の清掃活動がいかに大切か身に沁みました。市役所の方が氾濫直前に来られ、道路の排水溝付近のごみを早急に処理していただきました。そのおかげで被害は最小限に抑えられました。職員の方には感謝しています。また水害の泥はすぐに回収しないと乾燥後かなり硬くなり清掃が大変でした。水分を含むと重いうえにぬかるみに足をとられてすべりやすくなりました。慣れないと対応に苦労するなと思いました。一人で回収する時に積った泥の所はしゃもじを使ったのですが（笑）かなり良かったです。ただ風が吹くと砂塵で目や鼻が痛みました。私は駅前の掃除をしていたので、たくさんの人が通る道路はしっかり水洗いしました。市役所や住民の人に喜ばれていたようです。



和歌山市 高垣晴夫さん

1. 活動内容

和歌山城ごみゼロ活動

（概要）

活動で集まった草や落葉の処分について焼却処理以外の方法について相談を受けました。和歌山市とJAに相談し、和歌山城で一時保管、JAに取りに来てもらい肥料にして使用してもらえるようになりました。

2. 活動を通じて気が付いたこと

コロナ禍が収まって、人の流れが活性化してきたので、街中のプラスチックごみ、煙草の吸殻が目立つようになってきました。レジ袋の散乱は少なくなってきたように感じます。



★今回はごみに関する活動を集めました。県では、県民及び県内事業者の自主的な清掃活動を「わかやまごみゼロ活動」として認定し、県ホームページ等での情報発信、清掃活動用の資機材の貸与、環境啓発グッズの提供などの支援を行います。詳しくは、こちらのHPをご覧ください。

和歌山県「わかやまごみゼロ活動について」

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/031800/gomizero/katsudo.html>



「2050年カーボンニュートラルわかやま」 ロゴマークを作成しました！

2050年カーボンニュートラルを達成するためには、県民・事業者・市町村などあらゆる主体が一体となり取り組んでいく必要があります。

脱炭素に向けた全県的な取組を推進し、本県の2050年カーボンニュートラル実現に向けた気運を醸成するため、「2050年カーボンニュートラルわかやま」のロゴマークを策定しました。



運輸業界向け脱炭素セミナーを開催しました！

和歌山県では、県内企業の脱炭素経営を促進するため、令和4年度から業種別の脱炭素セミナーを開催しています。「脱炭素に取り組みたいけど、何をしたらいいのかわからない。」「同じ業種で脱炭素に取り組んでいる企業の話が聞きたい。」といった企業の声を踏まえて、各業種の特성에応じた具体的な取組内容や国の補助金等の活用を提案しているほか、その業種において先行的に取り組んでいる企業の取組事例の紹介などを行っています。

今回は、令和6年1月24日に、運輸業界向け脱炭素セミナー（入門編）を開催しました。本県の温室効果ガス排出量の約17%（2020年度）を占める運輸部門は、和歌山県の新たな温室効果ガス排出量目標である「2030年度の温室効果ガス削減目標として、2013年度比で46%削減」及び「2050年カーボンニュートラル」の実現のために、更なる温室効果ガス排出量の削減が求められています。本セミナーは、主にトラックを使用している運送事業者を対象に、脱炭素意識の醸成や支援制度・補助制度の紹介を目的に開催しました。

今回のセミナーでは、以下の3者より講演を行っていただきました。

・「脱炭素の潮流、国の支援制度の紹介」

講師：環境省近畿地方環境事務所 脱炭素化支援専門官 上平 裕子 氏
(脱炭素の動向や脱炭素経営が求められる理由、国の支援制度の紹介がありました。)

・「当社の取り組みと低公害トラックの現状」

講師：株式会社 エコトラック 代表取締役社長 池田 雅信 氏
(各イベントや学校等における環境にやさしいトラックの普及活動の紹介や導入しているトラックの紹介、運輸業界における環境にやさしいトラックの現状と課題の紹介がありました。)

・「運送事業者様へのCO₂削減コンサル支援事業の概要説明」

講師：一般財団法人環境優良車普及機構 企画調査部 部長 小林 雅行 氏
(運輸業界における温室効果ガス排出量の現状や削減の必要性、温室効果ガス排出量算定支援・コンサル支援の紹介がありました。)



セミナーの様子

本セミナーには、運輸業界だけでなく金融業界など他業種の方にもお越しいただきました。参加された方には、脱炭素の情勢や補助金について熱心にご聴講いただきました。

今後も様々な業種やテーマを選定してセミナーを順次開催していきます。セミナーの案内は、環境生活総務課のホームページやInstagram「エコの和」等で公表していきますので、是非、御参加ください。

当セミナーに関するお問合せは環境生活総務課（TEL：073-441-2674）まで

イベント情報

うみわかまもる
プロジェクト「うみわかまもる隊員
任命式」開催

日時：2024年3月10日(日) 14:00～

場所：本町公園(和歌山市北桶屋町7)

※同日開催のとこと市会場にて

内容：任命書・隊員証の授与をはじめ、環境漫才、
子どもたちによるビーチクリーンの歌など
のエンタメもあります♪

いずれも

お問い合わせ、詳しくは県センターまで

E-mail: wenet@wenet.info FAX: 073-499-4752

食べる と 暮らす

アイデアをシェアするコミュニティ

「和歌山食と暮らしプロジェクト」

様々なもの・ことを循環するイベントを開催
「わかやま循環計画DAY」

日時：2024年3月10日(日) 11:00～16:00

場所：本町公園(和歌山市北桶屋町7)

※同日開催のとこと市会場にて

詳細は決まり次第noteでお知らせします



食と暮らしプロジェクトnote

里山整備活動への助成制度・令和6年度募集

～「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」の募集をします～

住民のみなさんがグループで森林資源の活用や里山環境の改善を目的に活動することにより、
よりよい地域づくりを支援する林野庁の助成制度です。

実施主体：木の国協議会 助成期間：令和6年度（1年間）

助成の対象となる活動：里山・竹林の整備、山菜・きのこ・紀州備長炭の原木、木質バイオマスなど
森林の様々な資源の活用のための活動で、3年以上継続して実施する活動

申請書の提出のメ切：4月22日(月) 採択決定 6月下旬

詳細、申し込み書類等の様式については、ホームページに掲載

公式WEBサイト：<https://kinokunik.net>

お問い合わせ：木の国協議会

(〒641-0014 和歌山市毛見996-2 NPO法人わかやま環境ネットワーク内 担当：大野)

電話：073-499-4762 [平日10～16時]

県センター通信

COP28が閉幕しました。主な採択事項として2030年までに「再生可能エネルギーを3倍に／エネルギー効率を2倍に」という新たな合意がなされました。これは、発電設備の数を増やしたり、技術的な向上を目指したりすることを指しています。例えば蛍光灯をLEDに取り替えるとおよそ2倍の効率になる、といった具合です。日本では2030年までに家庭部門で66%の削減目標となっていて、より具体的な対策が求められています。ぜひ一緒に取り組んでいきましょう。

2023 冬号 vol.51

発行／和歌山県環境生活総務課
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL: 073-441-2674 FAX: 073-433-3590
mail: e0317001@pref.wakayama.lg.jp編集・お問い合わせ／和歌山県地球温暖化防止活動推進センター
〒641-0014 和歌山市毛見996-2
TEL: 073-499-4734 FAX: 073-499-4735
mail: wenet@wenet.info